

# 米国の大学におけるダンス教育 カリキュラム

畑野裕子

## 緒言

本報は、米国の大学におけるダンス教育カリキュラムについて明らかにし、今後多様化していく日本の大学におけるダンス教育を検討する上での一指針を得ようとするものである。具体的には、まず、米国のダンス（舞踊）関係学部・学科の中でも、単一の舞踊学部（'94から改組中）として代表的なUniversity of California Los Angeles（カリフォルニア州立大学ロサンゼルス校：UCLAと略す）、School of the ArtsのDance Department（D. Dept.と略す）を例として、そのカリキュラムについてみることにする。続いて、複合的な舞台芸術学部の例として、University（Univ.と略す）of Hawaii at Manoa、（ハワイ大学マノア校）College of Arts and Humanities/Dept. of Theater and Dance（T. & D.と略す）と、Physical Education（P. E.と略す）Dept.（体育学部）の例としてUniv. of Wisconsin Madison（ウィスコンシン州立大学マディソン校）School of Education（Edu.と略す）/Dance Program（D. Pro.と略す）におけるカリキュラムについてもみることにする。さらに、Clemente K.の文献による米国の大学におけるダンス教育の現状と展望についてもふれることにする。

## 方法

初めに、ダンス教育カリキュラムに関する文献研究を行った。次に、以下に示す大学のダンスに関する学部長、学科長（Chair）、関連学科担当教官などを対象としたインタビュー（'92, '93, '94）により資料を収集した。

1. UCLA
  - 1) School of the Arts;
    - ① Dr. Thomas E. L. (Chair)
  - 2) D. Dept.;
    - ① Dunin E. (Chair)
    - ② Mitoma J. (Chair)
    - ③ Leung A. (Assoc. Prof., D. Edu.)
    - ④ Dr. Alter J. (Assist. Prof., D. Edu.)
2. Univ. of Hawaii at Manoa/College of Arts & Humanities/Dept. of T. & D.
  - ① Zile J. V. (Prof., D. Ethnology)
3. Univ. of Wisconsin Madison/School of Edu./D. Pro.
  - ① Dr. Baner S. (Chair)

なお、UCLAのD. Dept.については、現地での通年（'92 Fall, '93 Winter, '93 Springの各Quarter）の授業観察を行い、資料を収集した。

## 結果

### 1. UCLAのD. Dept.の組織とカリキュラム

UCLAのD. Dept.は、1962年に州立大学初のDance Arts Programをもつ学部として設立され、1994年からはWord Arts & Cultureを合併している。現在のカリキュラムをみると、まず、学部（Bachelor of Arts; B. A.）の専攻は、4クラスター（①Coreography/Performance, ②Analysis Documentation & Media, ③Critical Studies, ④Applied Studies）から選択できるようになっている。また、大学院は、Master of Arts (M. A.)として4コース（①D. Ethnology, ②D. Edu., ③D. History & Aesthetics, ④D./Movement Therapy）がある。Master of Fine Arts (M. F. A.)としては、⑤Coreography/Performanceがあり、職業的色彩が伺えることは特徴的なカリキュラムといえよう。そして、D./Movement Therapyコースでは、American Dance Therapy Association (ADTA)の資格が認定される。

次に、授業科目をみると、全コースに、Studio Classといわれる実技を主とした授業科目があり、これは学部の授業科目の中心となっている。例えば、Modern D.やBalletは、技能別クラスがあり、Modern D. Technique & ChoreographyやImprovisationの授業科目がある。さらに民族舞踊については、D. of Indonesia, Japan, India, Korea, Africa, Mexico, Yugoslavia, Spain, Israelなど多種にわたっている。これらの実技授業科目は、いずれもGeneral Elective（教養科目の選択科目）として、ダンス専攻学生のみならず専攻以外の一般学生も受講できる。また、舞台芸術として必要な授業科目、例えばD. production, Music for D. T., Lighting Design for D. T., Costume & Scenic Design Concepts for D. T.などがある。

また、大学院の全コースの必修科目は、Research Methods & Bibliography in D.で、ダンスにおける研究の方法論や文献研究に関する授業である。他の科目は、専攻コースにより必修・選択が異なっている。すなわち、D. Ethnology, Curriculum Development, D. Edu., D. Philosophy & Criticism, D. Kinesiology, D. Notation, D. Movement Analysis, Group Dynamics & Process, D. Movement Therapyなどがあるが、その他については割愛する。大学院の授業科目の中心は、その専門に関わる領域を含み、修了に関しては論文、作品の発表、またはComprehensive Examinationの選択ができる。

## II. ハワイ大学マノア校とウィスコンシン州立大学マディソン校

まず、ハワイ大学マノア校は、Dept. of T. & D.として存在し、芸術関連学部におけるJoint Majorの例といえよう。コースは、学部のB. A.にGeneral EmphasisとD. Ethnology Emphasisがあり、さらに、B. F. A. (in D. T.)が履修できる。そして、大学院については、M. A.とM. F. A.がある。この学部・大学院における特徴は、第2専攻以外の全コースにおいて、必修科目として、Asian or Pacific Performanceを履修しなければならないことである。また、ハワイにおける先住民やアジア系移民を含めて、地理的・社会的な背景が取り入れられていることもその一つである。

次に、ウィスコンシン州立大学マディソン校では、School of Edu.にD. Pro.がある。Margaret H'DoublerがD. Pro.を設立したときも、ダンスはWomen's P. E.の一部であり、D. Dept.であった。'70年代にMen's P. E.と合併し、この学部は、P. E. & D. Dept.となり、ダンス領域において学部のB. S. (Science)、大学院のM. A., M. F. A., Ph. D.のコースをもっていた。ところが'90年に内部事情により、D. Pro.は単にP. E. Dept.の一部の選択科目になった。'92年に新たにInter Arts Techonology (IATECH) のプログラムが設立され、学部のB. S.が取得可能となり、D. Pro.はP. E. Dept.から独立した。そして、P. E.の名称はKinesiologyに変化した。このように、ダンスは独自のプログラムとなったが、現在は学部組織のレベルではない。その専攻は、①Performance & Coreography, ②D. Edu., ③IATECHであるが、現在大学院はなく、Joint Majorとして、以前のPh. D.のプログラムをもてるようにD. Pro.が働きかけている。

## III. 米国の大学におけるダンス教育の現状と展望

Karen Clementeは、“Dance Education Degree Programs in Colleges and Universities” (“Dance in Higher Education”, National Dance Association編, '92)で、全米のダンスに関する調査('89, '90)をまとめ、大学のダンス教育の現状を概説するとともに、今後の提案を述べている。

現状については、主にD. Teacher Certification (ダンス教員資格) システムに関することである。以前はダンス教員資格システム (ダンス教員の特別枠)があったので、その資格をもった卒業生は教員としての就職の機会があったが、予算や政策の影響でその特別枠が減少したり消滅した。そして就職の機会の減少により、ダンス専攻学生も減少し、人気のない学部やプログラムの縮小や解体が行われるようになった。しかしながら、大学におけるダンスプログラムの調査 (入学資格、

ダンス教員資格、カリキュラムなど) から、それらが次第に充実していると述べている。

一方、同氏は、州内のダンス履行の方略として、プロジェクトをつくるようにも提案している。具体的には、州の教育委員会にダンスを他の芸術教科と統合したり、体育のプログラムの中で芸術的体験として常設したり、授業計画や施設・教材の問題の解決を働きかけることを提案している。

## 考察

まず、カリキュラムについてみると、米国の大学において、ダンスが体育の一運動領域にとどまらず、芸術としても位置づけられていることが特徴的である。

次に、授業科目を教養科目についてみると、Studio Classは教養科目の一選択科目として開講されており、日本の保健体育の運動領域の選択とは、体育の枠組みが異なる。したがって、ダンス専攻に開設された授業科目の一部が、一般学生にとっては教養科目の選択科目として受講できるように、広い選択肢となっている。このことから、近年論じられている日本の大学におけるカリキュラムの多様化の中で、ダンスを教養科目の一選択科目として開講する可能性が示唆される。また、米国の教養科目では人種的・文化的・社会的背景から、民族舞踊が多く扱われており、実社会を反映したカリキュラムといえよう。

また、専門のダンスの授業科目についてみると、米国では様々な専門領域を含んでいる。Coreography/Performanceコースにおける職業的色彩、D./Movement TherapyコースにおけるADTAの資格の認定などは、日本の体育教員や小学校教員の免許を目的とした教員養成課程にはみられないものである。さらに、修了に関しては、論文、作品の発表、Comprehensive Examinationの選択があり、日本に比較して弾力性がみられる。この点に関しては、日本でも検討の余地があろう。

最後に、教員資格についてみると、米国では体育教員や小学校教員資格に加え、ダンス教員の資格制度が一部存在し、この制度の強化を働きかけている。日本では現段階でこの資格制度を実施する具体性は少なく、これを補うためには、現職教員の再教育などの教育研修システムや単位取得方法などの改善や企画が急務と思われる。

今後、このようなことを包含したダンス教育カリキュラムについて、様々な面からの可能性を開拓していきたいものである。

付記) 本研究の資料の一部は、平成4年度文部省在外研究員として米国滞在中に収集した。本研究の詳細は、「実技教育研究」(第9巻, 1995, 兵庫教育大学実技センター)に掲載している。